

30年度取り組みに向けた区政会議意見まとめ  
(健康・福祉部会)

No.	項目	日時	意見	30年度
1	担い手	6/15	地域で核となり活動している人の次の世代の人をたくさん探し育成することが課題。輪を広げ人間関係つなげる。長い時間をかけての取り組みが必要。	
2		6/15	<b>40～60代の世代が地域のネットワークを担うべき。</b> 危機感を伝え参加してもらおう。	
3		6/15	<b>女性はずくにコミュニティが作れる。ママ友などのネットワークから地域に入って支援ネットワークになる流れができればいい。</b> <b>男性は難しい。</b> 声をかける等のきっかけが必要。 <b>地道な勧誘。「親父の会」「腕相撲大会」</b> など身一つで入りやすく盛り上がるができないか。	
4		6/15	時間のある人は地域活動することでコミュニティができるだけでなく自身の健康づくりにもなる。	
5		6/15	<b>市が実施する新しい総合事業(介護予防)担い手研修は、日程場所などもっと受けやすくして敷居を下げてほしい。</b>	
6		6/15	2つの大学で研修ができ単位が取れるようなことができれば、大学生のアルバイトの選択肢になるのでは。地域の子ども食堂などにも関与してほしい。	
7		6/15	福祉は依存してしまいがち。防災は自分の身を守るためなので、自分のこととして響く。それを糸口に接点にできないか。	
8	地域	5/18	地活協では毎年の行事を何とかこなしていくのが精一杯。福祉の話を協議する場もない。地域では見守りも素人。メンバーの欠席など初歩のことからしている。	
9		5/18	子どもの見守り活動や青パトなど個々の取り組みはこなせているが、つながりが薄い。地活協・地域組織として地域内の横の連携する必要がある。地域と事業者(介護・福祉系)を結びつける取組みも必要。まずは顔をつなぐことで連携でき相談しやすくなる。	
10		6/15	何でも <b>地域包括支援センター</b> がするという方向になっているが、24時間体制が続き、 <b>このままではもたない。</b> 行政もバックアップや一緒にここまでするというところを見せてほしい。地域だけ・行政だけで頑張ってもだめ。	
11		6/15	家賃補助や町会加入者を優遇など、 <b>若い人が東淀川区に来たいと思い、</b> 地域に繋がれるシステムづくりが重要。	
12	相談窓口	6/15	<b>行政相談をもっと身近にしてほしい。</b>	
13		6/15	<b>昔は伝言板があったように、困りごとや助けられることを伝え合うボードやコミュニケーションツールができないか。人が集まる商店街に椅子を置いて何でも相談できるようにしては。</b>	
14		6/15	自分で窓口に相談できない孤立している方・ <b>ひきこもりの方をどう地域で把握し対応していくか。</b>	
15		6/15	行政が相談員などを雇って担い手を確保することに予算を。	
16	認知症	6/15	認知症予防に関する関心が高まっている。家族の負担も大きい。 <b>認知症予防できる取り組み</b> があれば百歳体操のように流行るのでは。健康寿命を延ばすためにもいい。症状が出る前に地域につなげることができればいい。	

No.	項目	日時	意見	30年度
17	情報発信	6/15	<b>高齢者にわかりやすい等身大の高齢者の気持ちに合わせた伝え方。歌やロゴで伝えれば置きやすいのでは。直伝の仕方・アウトプットの仕方など考えていく必要。</b>	
18		6/15	<b>東淀川区は、生活困窮者自立支援や今年度からの複合課題支援体制など、様々な福祉施策をモデル事業として先駆けて行い、全市展開につなげている。いきいき百歳体操も大阪府で2番目に多い。そういう点をもっとアピールしては。</b>	
19	その他	6/15	ひきこもりの高齢者を外出させても活動できる場所が少ない。	
20		6/15	<b>子どもの愛動喫煙が多い</b> のでは。喫煙マナーやモラルの啓発が必要。	
21		6/15	今後福祉分野は深刻な状況になり空き家も増える。地域に任せるのであれば行政が報酬を払うべき。ポットで存否確認できる時代であり、機械管理を充実したり、いざというとき行政が入り込める法整備など、制度設計からの見直しが必要。情報共有も重要。区民に届いていない。	